

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた 千葉県戦略」に基づく取組

(平成26年度～大会終了)

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたこれまでの取組

2020年東京オリンピック・パラリンピック に向けた取組の基本方針

平成26年7月 千葉県策定

「オール千葉」体制で進める 5つの取組の方向性

- ① キャンプ誘致とスポーツ振興による地域の活力づくり
- ② 人と物のスムーズな流れの確保
- ③ 魅力ある観光地づくりとおもてなし力の向上
- ④ 大会のサポート
- ⑤ 戦略的な千葉の魅力発信

2020年東京オリンピック・パラリンピック に向けた千葉県戦略

平成27年3月 千葉県策定【10月改訂】

5つの取組の方向性に沿った 具体的な戦略(取組)

- ※戦略0 大会の成功・開催効果の全県への波及
※本県での開催決定に紐づく戦略であり、戦略1～9を包括
- 戦略1 キャンプ・国際大会・MICE誘致
- 戦略2 競技力の向上・スポーツの普及
- 戦略3 成田空港の利便性向上、
交通ネットワーク・アクセスの強化
- 戦略4 バリアフリー化の促進
- 戦略5 魅力ある観光地づくり
- 戦略6 外国人受入体制
- 戦略7 危機管理・安全対策
- 戦略8 機運の醸成・国際交流の促進
- 戦略9 戦略的な千葉の魅力発信
⇒ 戦略ごとに専門部会を設置

千葉県戦略に基づく各主体の大会に向けた取組を整理(総括)

(県を含む専門部会及び市町村の取組報告・推進会議における取組等を掲載)

基本方針① キャンプ誘致とスポーツ振興による地域の活力づくり

戦略1 キャンプ・国際大会・MICE誘致

○スポーツコンシェルジュや
競技開催地の知名度を活かした
事前キャンプ・国際大会等の誘致

○事前キャンプ・国際大会誘致
を地域の活性化へとつなげる
取組

主な取組実績

○事前キャンプ誘致

- ・県スポーツコンシェルジュが支援した事前キャンプ・国際大会の誘致：23件
- ・東京2020大会：17市2町及び県が18か国と実施について合意
(15市及び県で14か国を受入)
⇒県では、オランダ及び米国の事前キャンプを受入
(H27以降 世界陸上北京大会等を含め受入を実施)
- ・広域的・官民で連携した誘致活動
(市原市・君津市・マザー牧場、佐倉市・成田市・印西市・順天堂大学、勝浦市・国際武道大学)

○継続的な国際大会の誘致 ⇒開催地・競技の聖地化

- ・車いすラグビー、ゴールボール：千葉ポートアリーナ
- ・サーフィン (WSL QS6000)：釣ヶ崎海岸

○地域の活性化へつなげる取組

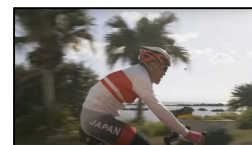
- ・サイクルツーリズム推進、スポーツ健康都市宣言 (館山市)
- ・地域スポーツコミッションの設立 (鴨川市他)
- ・地域スポーツ施設の整備 (流山市他)
- ・県・市町で連携してキャンプ誘致PR動画を作成



オランダ水泳チーム



サーフィン (釣ヶ崎海岸)



キャンプ誘致PR動画 (自転車)

戦略2 競技力の向上・スポーツの普及

○本県選手の活躍に向けた
アスリート強化・支援

○地元開催を活かした
県内開催競技の普及

○パラスポーツの振興

主な取組実績

○アスリート強化・支援

- ・県強化指定実績 オリンピック：1,568名・パラリンピック：480名(延べ人数)
(うち選出 オリンピック：38名・パラリンピック：37名)

※H26～R2

○競技の普及

- ・競技団体が学校訪問し、競技体験会等を実施(H29以降 52回開催)
(フェンシング、車いすフェンシング、レスリング、サーフィン)
- ・小学生等による国際パラ競技大会県内開催の観戦・応援

○パラスポーツの振興に向けた官民連携の取組

- ・経済界・学生が主体的に参画し実施した取組
「パラスポーツフェスタちば」(H28以降 5回開催)
「みんなの遊び場パラステーション」
- ・NHKと連携し公共施設等においてパラスポーツの魅力をアニメで発信
- ・全ての県立特別支援学校にホッパやゴールボール等の用具を整備
- ・拠点校の選出及び教職員への研修会・パラアスリート講演会の実施
- ・地域住民や近隣の小中学校生と共に楽しむスポーツ大会を実施



強化指定認定式



サーフィン学校訪問プロジェクト



パラスポーツフェスタちば

基本方針② 人と物のスムーズな流れの確保

戦略3 成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化

○成田空港の利便性向上

○大会会場周辺を中心とした交通ネットワーク・アクセス強化

主な取組実績

- 夜間飛行制限の変更（A滑走路側）
- 国際線・国内線のネットワークの強化 ※コロナ前
 - ・国際線就航都市数：100（H26.4）→118（R2.1）
 - ・国内線就航都市数：15（H26.4）→23（R2.1）
- 空港内の利便性・安全性の向上
 - ・ノンストップゲート化（検問廃止）
 - ・爆発物探知犬、ボディスキャナー等導入
 - ・到着免税店、Visitor Service Centerのオープン
- LCCネットワークの拡充
 - ・LCC専用ターミナル供用開始、到着ロビー拡張
- 競技会場周辺の整備及び交通ネットワーク等の強化
 - ・上総一ノ宮駅東口開設
 - ・道路網の整備進展（圏央道等）



提供：成田国際空港株式会社
ノンストップゲート化



提供：成田国際空港株式会社
LCCターミナル



上総一ノ宮駅東口開設

戦略4 バリアフリー化の促進

○ハード・ソフト両面からのバリアフリーの推進

(ソフト)

- 人材の育成
 - ・交通や観光事業者等の理解促進と対応力向上に向けた取組
- 心のバリアフリーの推進
 - ・利北°ック・パ°リ北°ック教育(心のバリアフリー)
 - ・経済団体による「声かけ・サポート」運動
- バリアフリー情報提供の充実
 - ・ちばバリアフリーマップの充実
 - ・バリアフリーツアーの情報発信



バリアフリーツアー
情報発信

主な取組実績

(ハード)

- 幕張メッセ及び周辺地域のバリアフリー化
 - ・(株)幕張メッセ、千葉市、県による連携した取組
(施設の改修及びエスカレーター・エレベーターの新設等)
 - 成田空港のユニバーサルデザイン化
 - ・当事者(障害者)参加の委員会のもと、空港のUD化を推進
 - 駅バリアフリー設備の整備
 - ・ホームドア
4市7駅20線に設置(H26~R2)
 - ・エレベーター(利用者3千人以上/日の駅での設置割合)
H26：92.2%(201/218)→R2：96.8%(213/220)
 - ・内方線付点状ブロック(同1万人以上/日の駅〃)
H26：36.3%(52/143)→R2：99.3%(147/148)
 - 福祉タクシーの整備
 - ・H29：1,014台(13.2%)→R2：1,694台(22.5%)※
 - ノンステップバスの整備
 - ・H26：1,107台(51.3%)→R1：1,486台(68.4%)※
- ※()内は全車両数に占める福祉タクシー及びノンステップバスの割合



国際展示場内EV(増設)



昇降式ホーム柵



福祉タクシー

基本方針③ 魅力ある観光地づくりとおもてなし力の向上

戦略5 魅力ある観光地づくり

○観光地の受入環境整備やおもてなし力の向上

○地域資源を活用した、観光地としての新たな魅力の創出

主な取組実績

○受入環境の整備

- ・公衆無線LAN(県立博物館・美術館全8施設の他、400ヶ所)
- ・観光公衆トイレ(234ヶ所)・駐車場(31ヶ所)
- ・観光案内板(421基)・観光案内所等(16件) ※H26～R2

○オール千葉でのおもてなし力の向上

- ・キャンペーンに約1,600事業所が参加(H30～R1)
- ・人材育成(観光ボランティア養成講座、おもてなし研修会)
- ・経済団体によるおもてなし力向上に向けた取組(講習会等)

○観光資源の磨き上げ等による地域活性化

- ・港周辺地域の整備や大型クルーズ船の誘致に向けた取組(木更津市)
- ・近隣自治体で連携した広域観光地及び観光産業づくりの取組(市原市・君津市・大多喜町)



観光トイレ(佐倉市:武家屋敷)



清掃活動(キャンペーンの取組)



「声かけ・サポート」講習会

戦略6 外国人受入体制

○将来の訪日外国人の増加を見越した受入環境整備

○外国人へのおもてなし力向上・おもてなしの提供

主な取組実績

○観光関連施設等の多言語化

- ・歩行者用観光案内板(42基)、車両誘導標識(33基) ※H26～R2

○多言語での危機管理対応能力の向上

- ・ちば救急医療ネットにおける多言語での問診票掲載
- ・防災ポータルサイトの多言語化 など

○通訳ボランティア・観光ボランティア育成

- ・通訳ボランティア養成(775名(H27～R1))
- ・外国語観光ボランティア養成講座(551名(H27～R1))
- ・大学における学生のボランティア活動参加等

○外国人観光客に対するおもてなし

- ・海外観光ゲストへのおもてなし力向上講座(1,660名(H27～R1))
- ・セミナー等を通じた商店街の多言語対応の取組推進
- ・多言語コミュニケーションシートの作成・配布



多言語観光案内板



防災ポータルサイト



多言語コミュニケーションシート

戦略7 危機管理・安全対策

○安全・安心のための
万全の準備と対策

○円滑な選手・関係者輸送の確保

○官民連携での交通混雑緩和の取組

- ・TDMとしてのテレワークや時差出勤の促進、ロードプライシングの導入



企業等への説明会

主な取組実績

- テロ等未然防止対策(テロ対策ネットワークCHIBA)
 - ・官民合同訓練や主要駅及び重要インフラ施設等の合同警備診断の実施
- サイバーテロ対策(サイバーテロ対策協議会)
 - ・自治体、重要インフラ事業者、大学等への講演・訓練の実施
- 災害対応
 - ・会場周辺の避難誘導看板等の整備
 - ・大会会場での発災を想定した災害対応訓練の実施
- 新型インフルエンザ等対応能力の向上 ※新型コロナウイルスは含まない
 - ・自治体・医療機関が連携し、病院実動訓練の実施
- 関係機関における多言語対応能力の向上
 - ・翻訳アプリの活用、YouTubeでの多言語による情報提供
- 移動交番車による地域防犯力の強化・大会時の活用
 - ・地域防犯力の強化、大会時は集客施設等で運用し防犯対策等を実施



テロ対策合同訓練



国民保護訓練



移動交番車

戦略8 機運の醸成・国際交流の促進

○ボランティア活動への参加促進

○大会に向けた機運の醸成

○国際交流や青少年の国際理解の促進等
共生社会の実現に向けた取組

○オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・全公立校を含む県内校での初年度教育の実施、25校でJOC初年度教室開催

※県内の2校がインクルーシブな世界の実現に多大功績を収めたとして「I'm POSSIBLEアワード」を受賞



I'm POSSIBLEアワード受賞の取組
木更津市立清見台小学校(上)
県立東金特別支援学校(下)

主な取組実績

- 都市ボランティアの運営
 - ・定員3,000名に対し、6,546名から応募
 - ・「ちょいボラ」で県民から約3万点のグッズ提供
 - ・オンラインを活用した活動(県の魅力発信やお見送り等)
- 「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座の実施
 - ・受講者(2,266名(H29~R1))
- スポーツを応援するチーバくんを活用した経済団体の取組
 - ・ポスターやミニのぼり、ステッカー等の掲出による機運の醸成
- 九十九里・外房地域16市町村によるキャンペーン
 - ・九十九里浜のビーチクリーン活動を実施(H29~R3)
 - ・大会会場装飾のためのひまわりを学校等で育成(H28~R3)
- カウントダウンイベントの実施
 - ・大会開催3年前、1000日前、2年前、500日前、1年前イベントの実施
- 文化プログラム関連イベントの実施
 - ・県民音楽祭・ちばアート祭やちば文化資産の活用、各地でイベント開催
- ホストタウン制度を活用した国際交流の推進
 - ・県及び19市2町がホストタウンに登録
 - ・選手の講演や競技体験会の実施、自治体と相手国の特色を活かした交流



都市ボランティアの皆さん



スポーツを応援するチーバくんの活用



カウントダウンイベント

戦略9 戦略的な千葉の魅力発信

○全国・世界への情報発信の強化

○本県の新たな 魅力の掘り起こし・発信



スポーツを応援するチーバくん

主な取組実績

○海外への幅広い情報発信

- ・成田空港のデジタルサインや国際線旅客機内等で千葉県の魅力を発信する動画を放映
- ・県内開催競技や県内の魅力等を収めた動画を制作の上、インターネット等で国内外へ向けて放映・配信したほか、県内開催競技に係るイベントや事前キャンプの場を活用し、千葉県の魅力を発信
- ・大会時に開催された「Tokyo Tokyo ALL JAPAN COLLECTION」に千葉県PRブースを出展、バナーの展示、パンフレット、ノベルティの配布等を通して、千葉の魅力を発信
- ・大会時に東京都メディアセンターでメディアに向けて情報発信
- ・メディア宿泊ホテルや競技会場において県産品を提供しPR
- ・チーバくんを活用したSNSでの情報発信
- ・アジア各国から招聘した大学生・メディアや「チーバくん大使」に任命した留学生等による母語での情報発信
- ・英語・タイ語版のいちご狩りパンフレットを作成・配布



千葉県イメージCM



チーバくん大使



台湾国際観光展 (H28)

○千葉の多様な魅力の掘り起こし・発信

- ・グリーン・ブルーツーリズムの推進
(農林漁業体験・農家民宿の受入者や地域への研修会実施)
- ・ちば文化資産・日本遺産(北総四都市江戸紀行)等

○海外におけるプロモーション

- ・海外トップセールスの実施
- ・アジア各国での現地旅行博への出展・現地旅行会社の招請
- ・海外旅行会社による県内団体ツアーへの支援